

(様式1)

自己評価表(最終)

愛媛県立土居高等学校

学校番号(3)

教育方針	人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。	重点目標	新しい時代を生きる「人間力」の育成と「学校力」の向上 えがお まなびや ～愛顔を育む学舎を目指して～
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学力・進路保障	確かな学力の定着	ICTの活用やアクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで「分かる授業」の実践に努め、生徒の授業への満足度を80%以上にする。 A：80%以上 B：79%～75% C：74～70% D：69%～65% E：64%以下	A	一人一台端末が配布され、ホワイトボード・プロジェクタも設置されたため、ICTを活用して「分かる授業」を実践した結果、生徒の授業への満足度は90%を超えている。特に、1、3年生においては、1学期より2学期の方が満足度が上がっている。	生徒の満足度の高い「分かる授業」の実践を続けるとともに、確かな学力が定着する授業展開やICTの活用方法についてさらに研鑽を重ねていく。
		学習習慣の定着を目指し、1、2年生は週15時間以上、3年生は週20時間以上の家庭学習時間を確保させる指導を行う。 A：90%以上 B：89～70% C：69～50% D：49～40% E：39%以下(目標時間達成率)	C	昨年と比較すると1、3年生は昨年より少し増え、2年生は少し減っている。1、2年生は、1学期と2学期はほぼ同じであるが3学期に減っており、家庭学習時間が十分確保できていない。	考査発表中や考査中は、しっかり学習している生徒も多く、考査期間でなくても生徒が家庭での学習を意欲的に進めるよう、端末を活用するなどの方法を工夫していきたい。
	進路実現	国公立大学、私立大学を含む進学希望者の進学先決定率を100%にする。 A：100% B：99～95% C：94～85% D：84～80% E：79%以下	B	国公立大学合格には至っていない(1月末の段階)。文科省所管外の水産大学校合格者が出るなど個別指導の成果も見られた。	3年生での模試等対策指導を学年会等を活用して早期から進めていく。進路希望によるニーズを考え主要2～3科目から個別指導をスタートする。
		希望する事業所への就職決定率を100%にする。 A：100% B：99～95% C：94～85% D：84～80% E：79%以下	B	就職決定率は最終的に100%となったが、若干名が二次募集に回るようになった。また、警察・消防といった公務員試験も一次を突破することができなかった。	3年生での就職対策問題集の活用を見直す。従来のテスト形式から問題を解く形に変え、アクティブ・ラーニングの形を取り入れるなど生徒が主体的に理解することに重点を置く。
生徒指導・安全教育	基本的な生活習慣の確立	心身の健康を維持する重要性を継続的に指導しながら、年間の出席率97%以上を維持する。 A：97%以上 B：96～90% C：89～80% D：79～70% E：69%以下	B	現時点での出席率は96.1%である。コロナ禍で、学校行事も縮小、中止になることが多く、心身の健康を維持させるのが困難な背景も感じられる。特に携帯電話の使用により、生活のリズムを崩すだけでなく、人間関係のトラブルになる事案が増加している。	学校生活に目的を持たせ、基本的な生活習慣を確立させるための努力、工夫が求められる。携帯電話の使用に関しては、家庭と連携した対策が急務である。
		身だしなみ指導において、年間合格率90%以上を目指すとともに、ルールを遵守する意識やマナーの向上に取り組む。 A：90%以上 B：89～85% C：84～75% D：74～70% E：69%以下	A	1年生の4月合格率63%は校則を十分に理解できていない時期であり低くなっている。これまでの身だしなみ合格率は90%である。1年生は7月には95%にまで向上している。1月合格率は3年生97%と例年になく高い合格率となっている。	学年が進むにつれ合格率が向上しており、自律の精神が育ってきていると受け止めたいが、特定の生徒が複数回再指導になるケースが増加している。次年度も日々の根気強い指導を今以上に心がけたい。
		コミュニケーション能力の向上に向け、積極的に笑顔で挨拶のできる生徒100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～85%	C	挨拶に関するアンケート結果では、先生への挨拶ができていると答えた生徒は90%台と高いが、生徒同士では半数程度に下がっている。	多くの生徒が挨拶がよくできているが、できない生徒に対しては、教員の側から積極的に声をかけるなどして、挨拶の習慣化を促す。
	安全意識の育成	交通マナーの遵守を働きかけ、交通事故防止に向けた取組を年間10件以上行う。 A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5件 E：4件以下	B	昨年度の県自転車交通マナー向上対策指定校での取組を継続できるよう努力した。警察との連携による毎月の登校指導を交通委員・教職員で実施し、実践的な交通安全教室も行い、成果があった。	これまでの取組を生かし、自転車のみならずJR通学生についても安全に登下校できるよう対策を進めていく。特に年度当初は重点的な強化を図る。

豊かな人間性・個性の伸長	個性の伸長	朝読書を実施するとともに、読書を推奨し、生徒一人当たりの読書冊数を平均3冊以上にする。読書会などの行事を主宰し、言語活動の充実を図る。 A：3冊以上 B：2.99～2.50冊 C：2.49～1.50冊 D：1.49～1.00冊 E：0.99冊以下	A	読書冊数は一人当たり6.3冊であり目標を達成することができた。ただし、学校図書については新刊を購入するなどの工夫をしたが、1月末現在で生徒一人当たりの貸出冊数が0.79冊であった。図書室に来て、図書を借りるまでには至らない生徒も見られた。	イベントの開催など、生徒にとって魅力的な図書室になるように、図書委員と一緒に工夫していきたい。
		充実した学校生活を送らせるために、部活動加入率を90%以上とする。 A：90%以上 B：89～85% C：84～80% D：79～75% E：74%以下	B	運動部・文化部合わせて、年度当初の部活動加入率は84.7%であった。ただ途中で退部をする者が多くなってきているように思う。	来年度も、各部でリーダーの育成を図り、活発な活動になるようにするとともに、途中退部者を減らす方を考えてい。
	豊かな人間性・思いやりの心の育成	各生徒が年2回以上ボランティア活動に参加し、地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高める。 A：2回以上 B：1.99～1.5回 C：1.49～1.2回 D：1.19～1.0回 E：0.99回以下	E	今年度もコロナの影響で、実施されたのが関川駅の清掃活動、天満公民館まつり、やまじっこマラソンと限られた活動にとどまり、生徒の参加は目標達成には遠く及ばなかった。	地域でのボランティア活動は限られているが、周知の方法を工夫して積極的な参加を呼びかけるとともに、違った形でできるボランティア活動も紹介したい。
		いじめ問題の防止に向けた取組を年間10件以上行い、相手を尊重する意識を高める。 A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5～4件 E：3件以下	B	実態把握のためのアンケートを実施し、いじめ防止委員会を開催して、いじめに関する事例研究や情報共有に努めた。また、いじめ相談ダイヤルやSNS活用相談窓口など、生徒が利用しやすい相談方法を年間に複数回、伝えるようにした。	県の「いじめSTOP！愛顔あふれるえひめフォーラム」の取組や研修内容を共有するなど、いじめの起きない学校づくりを推進していきたい。
地域との連携・学校の魅力化	保護者・地域との連携	P T A 関連行事（公開授業、講演会を含む）への出席率30%以上を目指す。 A：30%以上 B：29～25% C：24～20% D：19～15% E：14%以下	—	新型コロナウイルス感染防止のため、総会は書面開催となり、保護者が一堂に会するような行事は軒並み中止となった。委員の中にも以前の活動を知らない人が増えている。	コロナ禍においても、できるだけ多くの保護者が参加できるような開催方法を検討する。
		保護者、地域への教育活動の公開日を年間10日以上確保するとともに、来校者数の増加を図る(コロナ感染症の状況により変更あり)。 A：10日以上 B：9～8日 C：7～6日 D：5～4日 E：3日以下	A	周年記念行事等により、公開日を年間10日以上確保することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策で入場制限を行うなどしたため、来校者数の増加を図ることはできなかった。	感染防止対策を取りながら可能な範囲で公開に努め、地域の方にも来ていただける機会を設けたい。
	魅力ある学校づくり	各コースを紹介するコーナーを設けるなどしてホームページを毎日更新するとともに、新聞社や地元ケーブルテレビを通して教育活動の内容を積極的に保護者や地域に発信する。 A：180回以上 B：179～150回 C：149～120回 D：119～100回 E：99回以下（更新+報道の回数）	B	各コースを紹介するコーナーの準備は進めていたが、設けることにならなかった。学校ホームページは170件以上更新することができた。新聞社や地元ケーブルテレビにプレスリリースはしたが、コロナ禍のためか取材は少なかった。	今年度内に各コースを紹介するコーナーを完成させたい。学校ホームページやプレスリリースについては今後も積極的に続けていきたい。
農産物販売実習や、地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間10件以上実施して生徒の自己肯定感とコミュニケーション能力を高めるとともに、地域との連携に努める。 A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5～4件 E：3件以下		C	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定した回数を実施できなかった。そんな中で、収穫期の交流会、販売活動を開催できたのはよかった。来年度につなげる意味で大切なイベント参加となった。交流会を行うたびに生徒たちが成長する姿を見ていて、交流活動の重要性を痛感した。	今後も、感染状況を注視し、安全面など相手側としっかり検討した上で、感染防止対策を取りながら可能な範囲で開催できるよう、鋭意努力していきたい。	

現職教育	教職員の資質向上	<p>教職員の資質能力の向上を図るため、各教員が1年間に2回以上、他の教員の授業を参観する。</p> <p>A : 2回以上 B : 1.99~1.5回 C : 1.49~1.2回 D : 1.19~1.0回 E : 0.99回以下</p>	E	<p>研究授業が開催されても、自身の授業があり、他の教員の授業を参観に行きにくい状況があった。</p>	<p>研究授業でなくても、複数の教科でグループを作って相互参観するなどの工夫が必要であると考える。</p>
		<p>I C Tを活用した授業研究および実践に結びつく教員研修を年間5回以上実施する。</p> <p>A : 5回以上 B : 4回 C : 3回 D : 2回 E : 1回以下</p>	D	<p>夏季休業中に、外部から講師を招き、2回、研修を行った。全体の回数は少なかったが、全体研修を受けた後、教員間で自主的に研修をする場面が多く見られるようになった。</p>	<p>教職員が必要としていることを聞きながら、希望する研修内容になるように努力したい。</p>
業務改善	適切な勤務時間	<p>校務支援システムや、校務系メッセージ、掲示板等を活用して業務の効率化を図ることで、休憩時間を確保し、時間外在校時間を昨年度比で10パーセント以上減少させる。</p> <p>A : 10%以上 B : 9.9~5.0% C : 4.9~1.0% D : 変化なし(1%未満) E : 増加</p>	E	<p>周知事項の連絡等に校務系メッセージ機能や掲示板を積極的に使用したが、アンケートなどまだ紙媒体で集計しているものがあり、業務の効率化が不十分である。特定の教員への業務の偏りも見られた。時間外在校時間は昨年比で約14%増加し目標達成はできなかった。</p>	<p>各課の業務が特定の者に集中しないように分担するとともに、記録を確実にして整理しておき、担当が変わっても引継ぎができるようにする。端末の利用などにより、業務の効率化を進める。</p>
	職場環境の整備	<p>衛生委員会を充実させ、健康相談や健康に関する情報提供を年間10回以上行うことにより、教職員の健康の保持増進に努める。</p> <p>A : 10回以上 B : 9~8回 C : 7~6回 D : 5回 E : 4回以下</p>	C	<p>衛生委員会を定期的開催し、教職員の健康について情報の共有を図った。11月に健康管理医による教職員健康相談を3名の教職員に実施したほか、健康相談室だよりを1月までで5回ほど先生方に周知した。</p>	<p>衛生委員会が形式だけにならないよう、テーマに沿って情報交換をしっかりと行う。また、教職員健康相談を実施したり、健康相談室だより等を利用したりすることで教職員の心身の健康の維持・向上に努めていく。</p>

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。